

8月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 15.0km～21.0km
			管轄出張所:岡崎・安城出張所
実施日	令和 8年 8 月 8 日	実施区間	15.0Km ～20. 0Km(左岸)

洪水対策で様々な工夫 「赤渋排水ひ管」

右の写真(①②)の施設は、今まで何度も見てはいたのですが、今回、近付いて確認をしました。

「赤渋排水ひ管」のネームプレートがあります。岡崎市の所管です。

ネットで調べると「ひかん＝樋管」とは「堤内地の雨水や水田の水などが川や水路を流れ、より大きな川に合流する場合、合流する川の水位が洪水などで高くなった時に、その水が堤内地側に逆流しないように設ける施設」(河川学習システム編集部より)の説明がありました。

過去には「伊勢湾台風」で 死者33人

ちなみに、この岡崎地区の数十年の歴史で最も被害が大きかった自然災害は、伊勢湾台風(1959年)で、「死者33人、家屋全壊1139戸、床上・床下浸水217戸」という記録が残っています。

今年の夏は、千葉県や北陸部で線状降水帯による大雨の被害が、続出しています。

国や県・市で様々な自然災害に対して対策がとられていますが、私たち市民も関心をもっていく必要があると、今回のモニターでも痛感しました。

似たような施設はこれより下流の小川橋付近にも見られます。

できれば、こうした施設の説明書きがあると住民の安心感も増すのではないのでしょうか。



①「渡橋下流付近の赤渋排水ひ」



②「排水ひ管と連結するように作られた堤防外側の施設」



「赤渋排水ひ管と似た施設は小川橋付近にもあった」(左岸15Km付近)

河川愛護モニター

管轄出張所における対応措置(必要に応じて記載)

- ・②の施設は「赤渋(アカシブ)雨水ポンプ場」で、浸水被害軽減のため設置されています。
- ・小川橋付近(左岸15km付近)の施設は「高落排水樋管」で、岡崎市中島町にある「合歓木(ネムノキ)排水機場」の排水の吐出口になっています。